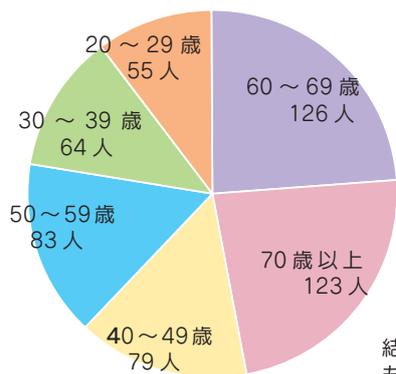


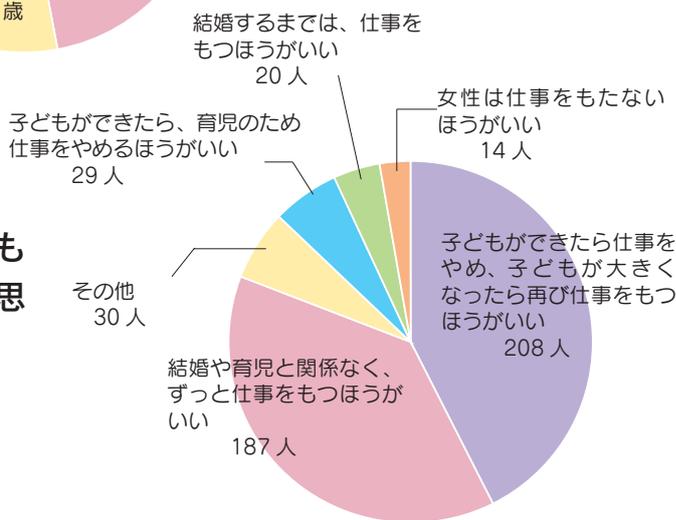
松浦市民の意識調査

前ページでも触れた意識調査の結果の一部を紹介します。
 この調査は、平成17年3月に旧松浦市で行い、平成19年8月に福島地域、鷹島地域で行ったものです。市内在住の20歳以上の市民1,360人（無作為抽出）を対象に実施し、531人（男性246人、女性285人）の回答がありました。

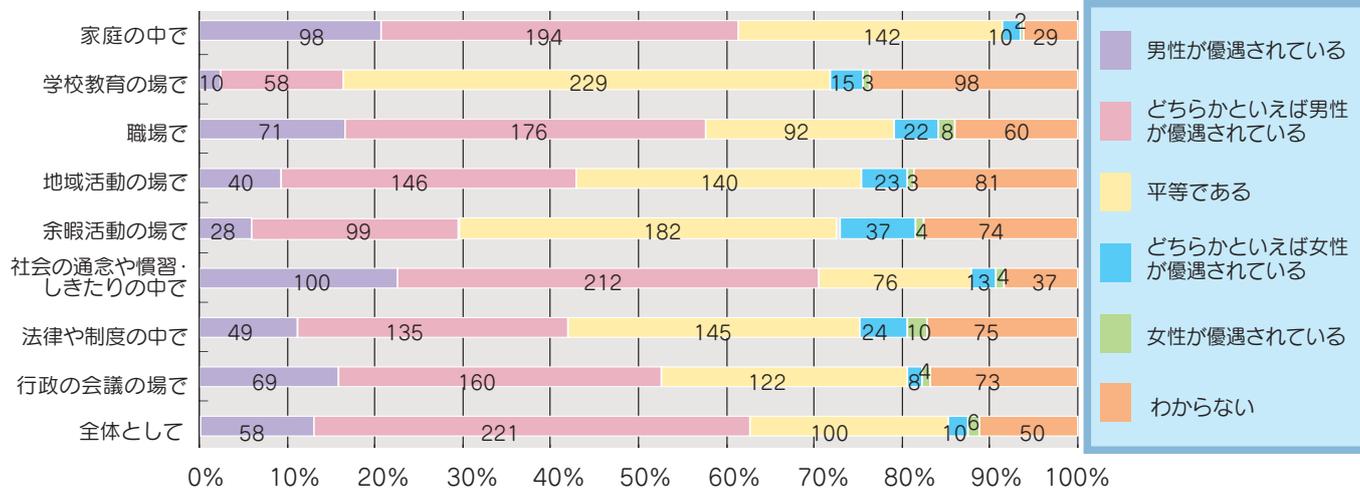
Q1 あなたの年齢は？ (回答数 530 人)



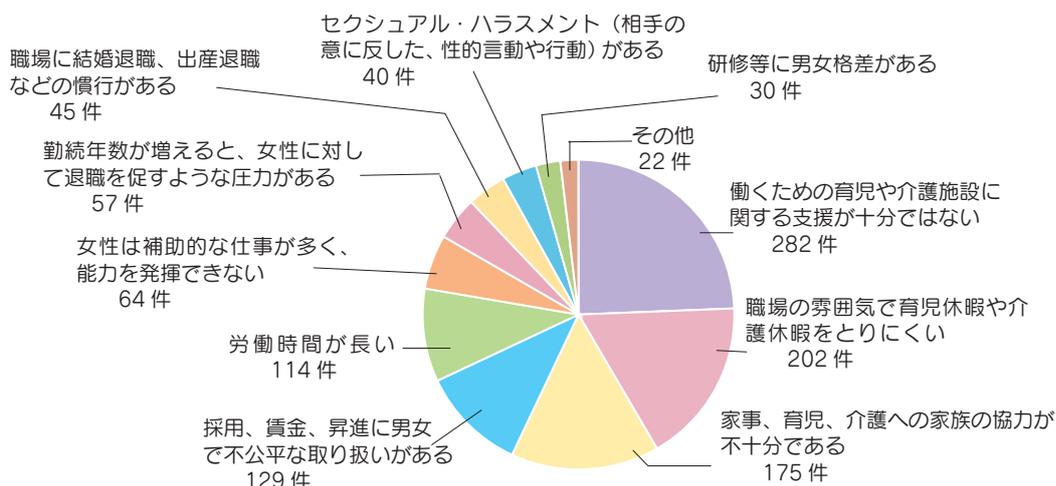
Q2 女性が仕事をもつことをどう思いますか？ (回答数 488 人)



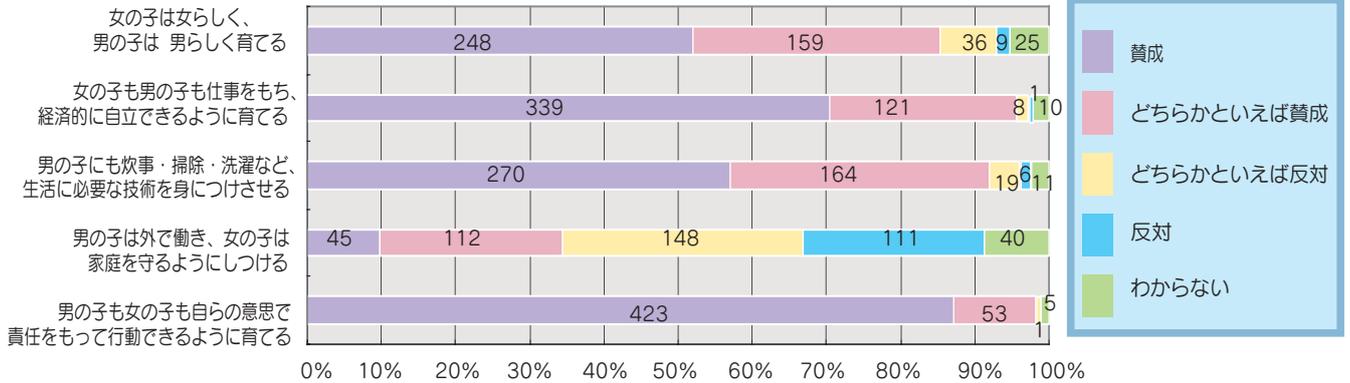
Q3 男女が平等になっていると思いますか？



Q4 女性が仕事をするとき障害となるものは？ (回答数 1,160 件、複数回答)



Q5 子どものしつけや教育について、どんな考えをもっていますか？



意識調査の結果から

Q1 年齢

各年代同数の人に意識調査を実施しましたが、回答者の年齢は、60歳以上がほぼ半数を占めています。

Q2 仕事をもつこと

「結婚や育児と関係なく、ずっと仕事をもつほうがいい」という意見の人が187人(38.3%)となっています。

その他は、育児に専念すべきという意見が多くありました。

Q3 平等感

学校教育、余暇活動の分野では、「男性が優遇されている」または「どちらかといえば男性が優遇されている」という意見は2割以下・3割以下にとどまっていますが、職場、家庭の中や社会通念では6割・7割に達しています。

Q4 障害となるもの

女性が仕事をする際の育児や介護の施設整備や支援制度が不十分であるという意見が多く寄せられました。また、制度が整っていないも休暇取得に対する理解が得られにくい傾向にあります。

Q5 子どものしつけ

男の子、女の子ともに精神的、経済的に自立できるように育てたいと考えている人が多くいます。また、男の子は外で働き、女の子は家庭を守るようにしつけるという性別役割分担意識には反対の意見が多く寄せられました。

「参加」から「参画」へ

松浦市男女共同参画推進懇話会座長

新見夕力さん

(志佐・上高野、68)



男も女も、思いやりの心を持って互いに尊重し協力し合って、家庭や職場や地域で生き生きと過ごしたい。それは誰もが願っていることだと思います。あらゆる分野で性別にかかわらず能力を発揮して活躍できる松浦市でありたいものです。

このたび市でも「松浦市男女共同参画計画」が策定されました。今後は、計画に基づいて市民一人一人が、単に加わる「参加」から、自発的かつ積極的に加わっていく「参画」へ向かう施策の実施が大切です。

みんなが「松浦市が着実に少しでも変わってきた」という実感が持てるようになるといいですね。

計画が実効あるものになるために、松浦市男女共同参画推進懇話会として協議を重ねていきたいと思えます。